

Q

市の土地の利活用について

高橋 剣一 議員



A

均衡のとれた土地利用に努める

質問一 多様な機能が充実した活力ある都市づくりの各施策の現状と課題、今後の方向性は。

- 二 公的不動産の管理に関し、低未利用物件の状況と今後の方針は。
- 三 前期基本計画の施策30及び施策31について。

ア 課題、成果指標、主な取組内容の現状は。
イ 土地の利活用に関する今後の

方針は。

答弁一（市長） 少子高齢化に対応し、将来にわたって都市としての活力が低下しないよう、活発な活動と交流を育むまちを目指して、拠点の形成と市街地の有機的な連携を進めていく。
二 売却可能物件の洗い出しと処分可能なものの売却を進める。駐車場などとして貸付収入を得ている



若葉駅西口周辺の街並み

る土地もあり、今後も有効な活用方法を検証していく。
三 **ア** 計画的な土地利用に関しては、建築協定の更新により、良好な住環境が維持保全されている。土地区画整理事業などの市街地整備の推進に関しては、防火地域・準防火地域の指定率を除き、おおむね順調に進捗している。
イ 市の構想やマスタープランに基づいて、市全体として均衡のとれた土地利用となるよう努める。

Q

後期基本計画作成に向けて

藤原 建志 議員



A

効率化、財源の確保を念頭に、足元を固めて取り組む

質問一 地域支え合い協議会の現状と今後の展開は。
二 経常的経費削減についての今後の取組は。
三 老朽化公共施設更新の計画について。
四 鶴ヶ島市運動公園第二期整備について。

答弁一（市長） 小学校区を基本に4つの地域で設立され、地域の助け合い活動、サロン活動などを行っている。自治会など既存の地域のつながりに配慮しながら、市内全域での設立に向けて取り組む。
二 給与の検討や事務事業の見直しによる職員数の減により、人件費を削減していく。また、健康寿命を延ばして医療費や介護費等を抑制し、生活困窮者の自立に向けた取組や各種助成の適正な給付に努め、扶助費の削減につなげる。公債費についても、計画的な市債の発行により、抑制に努める。
三 施設機能の統廃合に関する実施計画と老朽化施設の保全計画を一体的に策定していく。
四 財政状況を勘案しつつ、国庫補助金等を活用し、段階的に進める。用地の取得状況に応じて、市民が利用できるよう検討する。体育館については、白紙ベースで慎重に検討を進める。

